

20代で一つの仕事に打ち込んだ 専門性につながっていく 「ギャリア」が30代の

「仕事で専門性を身につけたい」「こう願う読者は多い。でも、その『専門性』ついていい何？ 専門性を深めるヒントは、日々の業務にあった！」

読者の悩みのトップは、20代も30代も「仕事」。専門性を身につけて、「好きなことを仕事にしたい」などの意見がすらりと並んだ。では、ハッピーな40代を迎るために、しておくべきことはなんだろうか？

20代のうちに、 自発的に仕事を

今の仕事と全く別の道を探すことよりも、実はこれが専門性を深める第一歩なのだ。

30歳までに…

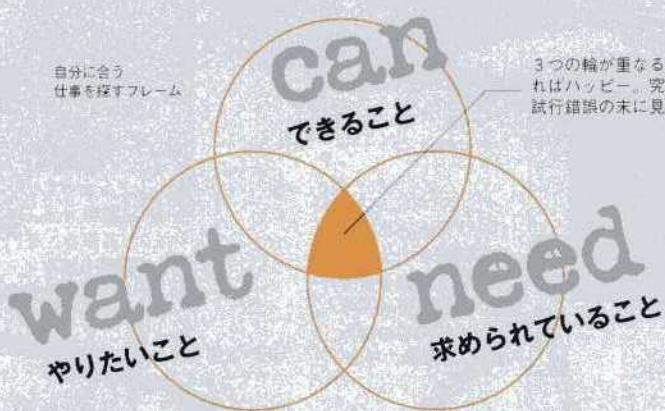
- 興味の持てない仕事でも、「自分なりの仕事のテーマ」を持つて取り組んでみる
- 長期的ではなく、短期的な目標を考えておく
- ひとりだけで考えず、5人は相談できる人を持つ
- 社内・社外に複数のロールモデルを探しておく

25歳までに…

- 目前の仕事に、とにかく創意工夫しながら必死に打ち込む経験をつておく（3～5年）
- 「好きなこと」ではなく、「できること」を考えてみる
- 受け身ではなく、自発的に仕事に取り組む
- 仕事における“不条理体験”を積んでおく

“20”代で しておくべき こと

3つの輪が重なる仕事に出合えればハッピー。究極の理想だが、試行錯誤の末に見つかるもの



この人たちに
聞きました

リクルートワークス
研究所 主任研究員
豊田義博さん
「就職ジャーナル」編集長などを歴任。
現在は組織・人材マネジメントの未
来形・雇用構造の変化、若年層のキ
ャリアデザインなどを研究している



**ギャリア・
コンサルタント
赤木美香さん**
リーダーシップ研修などを手がける
クラーク・フューチャー・コンサル
タント代表。若者・女性を中心にキ
ャリアカウンセリングも行う。近著
に「3Vの成功法則」（小学館）がある

日本産業カウンセリング
センター理事長
野原薫子さん
22参照

私たちの2大誤解！①

20代のルーティン ワークでは専門性が 身につかない！

事務職、ルーティンワークでは専門性が身につかないという読者の意見を専門家はそろって否定。「専門性がない」とルーティンワークを否定しない。むしろキャリアの一貫性のほうが重要で転職の面接でもそこがポイントに。事務の仕事も3～5年やれば、かなり周囲から頼られる存在に。これも立派な専門性です」（リクルートエイブルック鶴巻百合子さん）。

20代読者が
「仕事の専門性を付けたい」「資格を取りたい」理由は？

- 今年で転職2年目なので、30歳までに今の仕事をある程度のレベルまで上げておきたいから。そうすればもう少し自信のある自分になれるような気がするから（28歳・情報・システム構築）
- 自分に自信をつけるため。資格取得・仕事で専門性を身に付けられれば、仕事の視野が広がると思うから（27歳・保険・経理）
- 30歳までに基礎を作って、30歳からはそれをベースに発展していきたいと考えていたから（27歳・製造・秘書）

Work

20代→30代 転職で求められるスキルはこう変わる

年齢からみる転職市場

27歳 *「スキル、だけでなく、ボランティア、で勝負できる最後の年齢。異職種・異業種への挑戦は、この年齢までにするのがベター。一つのターニングポイント」*

30歳 *「即戦力」が大きなウリになると。企業が欲しいのは、すぐにお金を生み出せる人材や、教育の必要ない人材、そしてチームの中で実力を発揮できる人材*

32歳 即戦力にプラスしてプロジェクトなどのリーダー経験が求められる。スペシャリストしていくのか、マネージャーコースにのるのか分かれてくる年齢

35歳 職務実績（成果の出る仕事をしたか、社内外の人材リソースをどう動かしたか）とマネジャー経験が求められる。前職でのタイトル・肩書は大きな武器になる

一方、30代になつたら、闇雲にではなく、キャリアの方向性を絞っていきたい。まずは、自分の仕事をいつたん棚卸しすること。「何の仕事をしているときが楽しいのか？」自分は何のために仕事をしているのか？生活が、キャリアアップか、何かを達成したいのか。どんなスタンスで働くかを改めて考えたときに、「キヤリアコースも考

る」と豊田さん。見落としがちだが、失敗や成功体験を繰り返し、問題解決能力をアップさせておくことも大切だ。

30代は自分の立ち位置を確認

「与えられるままではなく、やり方を考えて。自分なりの問題解決の型を作つておきたいですね」と豊田さん。見落としがちだが、失敗や成功体験を繰り返し、問題解決能力をアップさせることも大切だ。

企業でも活躍でき、派遣社員としても企業に評価されるとか。また20代では、自發的に仕事に取り組む習慣も身につけたい。「与えられるままではなく、やり方を考えて。自分なりの問題解決の型を作つておきたいですね」と豊田さん。見落としがちだが、失敗や成功体験を繰り返し、問題解決能力をアップさせることも大切だ。

30代は、守りに入る人も多いが、専門家は「30代こそチャレンジを」と口をそろえる。産業カウンセラーの野原蓉子さんは、「管理職の話が来ると躊躇する女性は多いけど、会社に残りたいなら、挑戦してみて。そのため、管理職の視点で組織を見る習慣をつけて」と言う。パソコンの鈴木雅子さんも「例えば38歳のほうが28歳より、生活環境等により仕事の選択肢が狹まるかもしれない。でも、38歳だから…と挑戦しないのは一番危険。年齢よりも、『何をどの程度、何年やったか』が派遣市場でも大きな武器になります」と力説。

40歳までに…

- リーダーやマネジャーなどの役職を通して、経験の質を高める
- 年齢を気にせず、チャレンジする
- 過去の経験をストックし、自分なりの成功パターンを複数持つ
- どんな分野の、どんなことでもいいので何か一つを究める

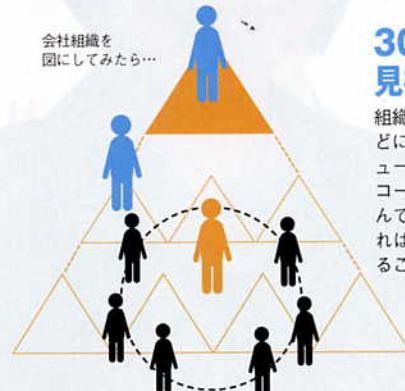
35歳までに…

- マネジャーかプロデューサーかエキスパートか。自分の立ち位置を考え始める
- 仕事の棚卸し、自分の強みや専門性を絞り込む
- 管理職になる想定をし、上司や組織の視点で仕事を考える習慣を付ける
- メンター・師匠を見つけておく

"30"代でしておくべきこと

30代で見極めたいこと

組織に身を置くなら、30代をめどにマネジャーコースかプロデューサーコースかエキスパートコースか。どのコースを今後歩んでいきたいかを考えたい。それは、自分の立ち位置を見極めることになる



マネジャー
権限を持って組織をまとめる人。仕事に全精力を傾ける！というくらいの覚悟が必要

プロデューサー
組織横断型プロジェクトを取りまとめ、新しい事業、商品を作り出せる人

エキスパート
専門性を持った、その道のプロ。既存の仕事の中でも爆発的に速く処理ができるタイプの人

私たちの2大誤解！②

30代読者が
「仕事の専門性を付けたい」「資格を取りたい」理由は？

- 今すぐに転職したいわけではないけど、これからは資格がないと転職もしたいときでできないと思うから（34歳・流通・経理）
- 幸せな40代に向けて、今が正念場だと思うので、土台を作りたい（34歳・流通・営業）
- 一度正社員という立場を離れると、簡単にもう正社員（自分がやりたい仕事で）になること

- は難しいので（32歳・教育）
- 仕事の専門性は、事務職として若い社員との実力の差をみせつけるために必要。しかし、35歳を過ぎると体力的にも、精神的にも新しいことは吸収しづらい。もっと若いうちに勉強しておけばよかった…（35歳・製造・経理）
 - 今の世の中、一つの会社に安定して勤めるというのは難しいし、かといってつぶしの利きにくい職業なので、他に分野を広げておかないと将来が不安（34歳・印刷・デザイン）

30代は資格がないと転職・派遣アピールにならない！

30代以降のキャリア形成に「資格」は必須と考える人も多いが…。「資格は+α」。問われるのは、経験と人間関係を構築する能力。今まで積んできた職務経験をもとに、まずは今の仕事を深める努力を」（テンプスタッフ和田さん）。

